

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.811 2021

2021年11月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

女の子を取り巻くスポーツ環境の課題

ナイキジャパンシリーズセミナー*（第1回）より

「速いボールを見ると怖くて、体を動かさそうと思えない」。

「足が太くなっておしゃれできない」。

「体育以外でスポーツができる場所ってどこにあるんだろう」。

「着替えの場所が少ない。盗撮なんて日常茶飯事」。

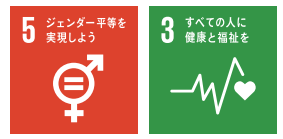
「指導者って男性ばかり。ジェンダー格差ってスポーツの中だけじゃないって気づいた」。

これらはナイキやローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団が、プログラムを通じて女の子から聞いた声です。スポーツについて女の子が抱える課題、障壁が浮き彫りになっています。2018年のスポーツ庁の調査によると「運動やスポーツをすることは好きですか」という問いに対して79%の女子中学生が「好き・やや好き」と回答しており、スポーツへの意欲があることがわかります。一方でスポーツの実施状況としては「週に1日もスポーツをしていない」女の子は、男の子に比べて約20%も多く存在しています。女の子たちのスポーツには環境の不足、女性らしさへの周囲の期待、ハラスメント対応の未整備等、さまざまな障壁があるのです。

近代スポーツは産業革命の時代に発展してきました。当時の社会のリーダーが効率性や高い生産性、組織力などを身につけるトレーニングの場としてスポーツが推奨されていました。そのような中で、男性が楽しそうにスポーツをしているのを見て、女性たちもやってみたいと思うようになります。そこで、女性がスポーツに参入するために性別役割分業で社会が成り立っていた時代にある違和感を、同じスポーツをしても異なる意味を持たせることで解消しました。たとえば男性にはリーダーとしての資質、エリート教育として、女性には優雅な振る舞い、美しい姿勢をつくるための礼儀作法、子どもを産むための健康づくり、というスポーツのダブルスタンダードです。では今、女性・女の子とスポーツの関係は改善されたのでしょうか。夏季オリンピックの参加者数・種目数の男女の変化からみると女性のスポーツ参加の急激な増加は1990年代であり、女性とスポーツの関係をよくしていこうという日本の歩みはまだ30年ほどしか経っていないことに気づかされます。

このことをもう一歩進めていくために「自分らしさを育てるスポーツ」を提案します。女の子自身がまずは自分が大事にする価値を作り、それをスポーツの仲間たちと共に活動する中で大事にして、迷う時には自分の大事にする価値を意識して判断する行動力を育てていく、それをスポーツの経験から育てることによって自分らしさを育てていくのです。社会で解決すべき課題をスポーツと掛け合わせ、その関係を女の子のスポーツに取り入れることによって、女の子をエンパワーするスポーツができるのではないのでしょうか。女の子たちが直面する障壁は私たちだけでは打ち破ることはできません。たくさんのパートナーと共に女の子の遊びやスポーツ参加の障壁を整理し、女の子のスポーツ参加を草の根レベルで支援していきます。

*2021年10月6日に開催された、ナイキジャングループ合同会社とローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団による企画。日本YMCA同盟もこの活動に参画しています。詳細は裏面。



Youth Empowerment X Partnership

2 Youth Empowerment

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。

日本全国において都市YMCA、学生YMCAが、それぞれの地域性やこれまでの歩みの上に日々、活動を展開しています。それぞれ多様性・独自性を最大限に活かしながら、日本のYMCAが一致協働して目指す方向性を定めたものが日本YMCA中期計画です。5つの項目からなり、これらを通してブランドビジョンである「ポジティブネットの創造」を、一歩前に進めることができるよう願っています。順次ご紹介していきます。（日本YMCA中期計画2021-2023）

Girlympiad 2021

YMCA Girl's Programme

「スポーツから疎遠になりがちな女の子たちが、無理なく楽しむために」

Girlympiad 2021 動画配信
“女の子たちのスポーツを核とした成長ストーリー”

YMCA Girl's Programme
supported by Play Academy
with Naomi Osaka

日本では「週1日もスポーツをしない」女性は、ほぼ全年齢層において男性に比べて多く（例：19歳時においては男子の3倍）*1、10代から30代の女性の約30%がスポーツに対してネガティブな印象を持っていることがわかっています*2。このような状況の原因として、とくに青少年期の女の子の興味関心に合うスポーツ環境が不足していること*3、女性コーチの人数が男性に比べ1/3ほどしかないこと*4、学校の部活などにおける暴言などのハラスメントが起きていることが挙げられます*5。コロナ禍における生活様式の変化によって、体を動かす機会はさらに減り、「スポーツ体験の不足」は心身の健康にも影響を及ぼしています。

YMCAでは、長年にわたりすべての子どもや若者が自分らしくスポーツを楽しむ、心と身体、精神にわたる全人的な成長の機会を用意しています。勝利至上主義や厳しい上下関係などはスポーツの本質ではありません。スポーツとは、第一に安心・安全な環境において、第二にロールモデルによる伴走的指導によって、単に身体能力を高めるだけでなく、自らの人生を切り拓くための自信、仲間と励まし合う隣人愛の実践、そして人生をかけて社会で解決すべき課題に取り組む視点とスキルを身に付けるために有効な習慣であるとYMCAは考えています。

今回、小学生から社会人まで、国内外でスポーツを通して人生を楽しみ切り拓く女の子たちにインタビューを行い、「女の子がスポーツや運動を続ける難しさ」はどこにあるのか本音を引き出しました。続けた先にどのような世界が広がるのか、スポーツを核とした成長のストーリーになっています。そこには、学校部活動の問題、「女の子らしさ」「かわいさ」を求める気持ちとスポーツを楽しむ気持ちのジレンマ、女性の身体特有のハンデなども浮彫りになっています。しかし、登場する一人ひとりの表情には自信と希望が満ちあふれています。気がつけば（なんとなく）スポーツから疎遠になりがちな女の子たちが、この動画を通して、スポーツがもたらしてくれる本来の楽しさや喜びに触れてもらえれば幸いです。

動画は、ナイキ、ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団とテニスの大坂なおみ選手が連携して、女の子のスポーツ参加を促し、均等な機会が提供される環境を創り出すことを目的とするプロジェクトの一環として作成されました。企画・インタビュー・編集にも主体的に女の子たちが関わっています。

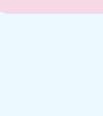
昔からの堅苦しいイメージを払拭！キラキラと輝きながら、女の子としてスポーツを武道を楽しめる世界にしたい。



大宮 舞凜 19歳
2019年関東地区空手道選手権大会第3位



コロナ禍で「カフェに行く」感覚でスポーツを。身体を動かすことで日常生活にもプラスがたくさん生まれる。



藤原 利菜 29歳
2021年パデル全日本選手権優勝、日本代表



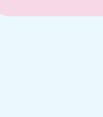
富士山の厳しい自然の中では、自然と励ましの声が出る。この経験をしたから「なんでもできる」という自信になった。



菊地 もも 中学2年
富士山ネイチャープログラムで登頂キャンプやトレイルラン参加



女性らしさは見た目だけじゃない。周りの目を気にせず自分に自信をもって、強く自立した女性が素敵。



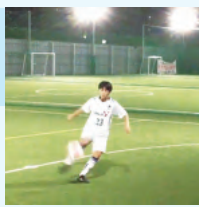
ヒル 真理 24歳
2019年NJCAA全米チャンピオン



男性のスポーツだという固定概念を取り払って、女子スポーツとしてのサッカーを正當に見てほしい。



北原 希海 高校3年 / 作山 亜沙美 高校3年
関西女子サッカーリーグ1部 FC大阪CRAVO所属



大学では自分が強くなるための練習をみんなが理解してる。「そういえば水泳ってこんなに楽しかったんだ」といまでは実感。



宇津木 美都 19歳
2020年東京パラリンピック競泳女子100メートル平泳ぎ (SB8) 6位入賞



仲間と一つの夢に向かって、あきらめないと決めたから強くなれたし、自分と向き合うこともできるようになった。



岩下 莉音 中学2年 / 宮内 心暖 中学2年
2019年チアダンス全国大会優勝、世界大会3位入賞



*1: 2017年スポーツ庁 体力・運動能力調査結果報告書より *2: 2018年スポーツ庁 スポーツを通じた女性の活躍促進のための現状把握調査報告書より *3: 2018年スポーツ庁 体力・運動能力調査結果報告書より *4: スポーツ庁 第1回スポーツを通じた女性の活躍促進会議 (2017年) より *5: 2013年明治大学・笹川スポーツ財団・横浜国立大学 高校運動部活動において指導者や上級者から受ける暴力・暴言経験のリスク分析より

日本YMCA 中期計画を語ろう /

4. Partnership



私はこの、「パートナーシップ」を理解するために、いつもあるキーワードを用いています。それは「よってたかって」という言葉です。確かにYMCAは伝統も実力もあるメジャーブランドの団体です。しかし私たちが直面している社会課題はあまりにも大きく、かつ複雑で複合的です。誰かひとりのカリスマや、どこかの一国、あるいはどこかの優秀な団体だけが単独で解決できるものではありません。中期計画の「Partnership」は、SDGsの17番目の目標「パートナーシップで目標達成」と強く紐づけられており、私たちは今、新しい流儀の強さを身につけられなければならない、と告げているのではないのでしょうか。ここでいう新しい流儀の強さとは、社会課題の解決について自分たちだけが活躍して、一人勝ちしていくような強さではなく、**自分たちの弱さを限界を認めると同時に、他者の優れた点、強みや優位性に敬意を払い、お互いの力を貸したり借りたり、あるいはお互いに依存しあいながら社会課題を解決していく、すなわち「よってたかって」行動するとき求められる新しい作法**なのではないのでしょうか。



ワイズメンズクラブはもとより、さらに広範にステークホルダーのみなさんと、私たちは「よってたかって」新しい歩みをはじめたいと思っています。これがここに掲げる古くて新しいパートナーシップの在り方です。

とちぎYMCA総主事 塩澤 達俊さん

2021年度 世界YMCA/YWCA合同祈祷週

2021年11月7日～13日

こわれたものからの美しさ
Beauty from Brokenness



YMCA/YWCA合同祈祷礼拝・祈祷会が、今年もさまざまな場所で開催されています。オンラインでの参加も可能です。是非ご参加ください。

詳しくはWEBでご覧ください。

